



切山歌舞伎

～ 老いを楽しむ② ～

去る9月16日(月・敬老の日)スターピアくたまつ大ホールで「切山歌舞伎公演・保存会結成45周年記念公演」が行われた。友人から入場整理券を買ったので早速出掛けた。

会場では山口放送時代の同僚、江口雄二君に出会った。そう言えば彼は切山の隣の東陽団地に住んでおり、パンフレットには企画・写真・記録・パンフレット作成とある。彼も

今から263年前の宝暦の頃、切山村に住む長重良が浪速(現在の大阪)に旅行し、竹本座という芝居小屋で歌舞伎を見物して帰る。

長重良は浪速で見た歌舞伎が余りにも面白かったので、寝ても覚め

たも忘れられなかった。ある晩、長重良の枕元に白髪の立派な衣裳

をつけた神様が現れ「切山八幡宮に歌舞伎を奉納してみよ。そうすれば切山一帯は五穀が良く実り、平和安泰になるであろう」と言われて

枕元から消え去った。朝になり長重良は目が覚めると「ありがたい。これは切山八幡の神様のお告げじゃ」と喜び、昨夜

蝶千鳥曾我物語～二度の敷皮の段ほどだった。思い起こせば、同じ切山に住む日活のシナリオライターだった東篠正年さんがミュージカル「星ふる街下松伝説」を上演した。会場は超満員、ファイナルで司会をした私は「下松市民であることを今日ほど誇りに思ったことはありません」とアドリブで思わず言った。この言葉に会場には割れんばかりの拍手が起こったことを思い出す。

今回の切山歌舞伎を見て、もし司会をしていたら同じ言葉を言っただろう。公演が終わり、切山歌舞伎後援会に入り、熱気に溢れた会場をあとにしたのである。老いを楽しませてもらった。

なお、今回の公演の様子は10月28日Kビジョンで放送されること。今回ご覧になれる人なは、ぜひこの下松で継承されている切山歌舞伎を見てほしいと思う。そして下松市民として263年間も伝承されているこの切山歌舞伎を大切に伝承していかねばと思った。

これは私も中学生の時、驚き「流狂言の保存に熱心な先生に教えられ、次良冠

者を行った経験があった。

今回切山歌舞伎25演目のうち、3演目が公演されたが、地元青年たちがこれを見物して来た。

今回最後の演目の「恋女房染分手綱く重の井子別れ

の「恋女房染分手綱く重の井子別れ

の「恋女房染分手綱く重の井子別れ

の「恋女房染分手綱く重の井子別れ

の「恋女房染分手綱く重の井子別れ

の「恋女房染分手綱く重の井子別れ

の「恋女房染分手綱く重の井子別れ

の「恋女房染分手綱く重の井子別れ

の「恋女房染分手綱く重の井子別れ

の「恋女房染分手綱く重の井子別れ

の「恋女房染分手綱く重の井子別れ

の「恋女房染分手綱く重の井子別れ

の「恋女房染分手綱く重の井子別れ

の「恋女房染分手綱く重の井子別れ

の「恋女房染分手綱く重の井子別れ

の「恋女房染分手綱く重の井子別れ



東陽小学校子ども歌舞伎「寿式三番叟」

東陽小学校子ども歌舞伎「寿式三番叟」



蝶千鳥曾我物語～二度の敷皮の段

ほどだった。

蝶千鳥曾我物語～二度の敷皮の段ほどだった。思い起こせば、同じ切山に住む日活のシナリオライターだった東篠正年さんがミュージカル「星ふる街下松伝説」を上演した。会場は超満員、ファイナルで司会をした私は「下松市民であることを今日ほど誇りに思ったことはありません」とアドリブで思わず言った。この言葉に会場には割れんばかりの拍手が起こったことを思い出す。



2019/09/16

恋女房染分手綱く重の井子別れの段